

「清水のオクワン」～田植えの無事終了を祝う民俗行事～

明石市魚住町清水地区では、田植えの無事終了を祝い豊作を祈って行われる「オクワン」と呼ばれる貴重な民俗行事があります。1994年(平成6)1月に明石市の無形民俗文化財に指定され、清水村民俗行事世話人会(清水神社)によって受け継がれています。今年(令和元年)は6月23日(日)に、9:00頃から11:00頃まで行われました。

田植えを無事終えたことを祝う行事は地域によって、サノボリ・サナブリ・サナボリ、シロミテなどと呼ばれます。「サ」は田の神のことをさすといわれ、「サ」の神が田植えの祈りに天からおりてくる(サオリ)、終わると天へのぼる(サノボリ)という信仰に基づく語だといわれています。田の神を送るサナブリ・サナボリの祭りのことを、清水地区では「オクワン・オックハン」と呼んでいます。

清水地区のこの行事では、桑の木で作った長さ約50cmの鍬「オックハン」と銅板メッキをした鈴のついた長さ約1mの御幣を使います。この民俗行事が「オクワン」と呼ばれるのはこの約50cmの鍬に由来するものと考えられています。今では毎年、田植えが終わった6月の末に行い、昨年度は、6月24日(日)、今年は6月23日(日)に実施されました。

この行事の特徴は、東の講、西の講、中の講、別れの講から各1名、計4名が、羽織、袴姿で、「オックハン」を右手に持ち、銅板メッキの御幣をかついで、米作りがうまくいこう地区の水路を水上から水下へ点検に回るところにあります。 行事の流れは、まず、清水神社に集まり、神前にそろい、神主が祝詞(無事に田植えを終え、これから米作りがうまくいこう、地



区の水路を水上から水下へ点検に行くが、米が実るまで水がすみずみまで流れるよう願う内容)を奏上する。長さ約50cmの「オックハン(オクワン)」と御幣(ごへい)、洗米(生の米)、海・山の物(鯛、昆布、スルメ、大根、みかん、リンゴ、人参)、御神酒を神前に供え、榊を供える。お祓いのあと、洗米、御神酒をいただき、烏帽子、羽織姿で、御幣、「オックハン」をもった4名が、神社を出発します。



最初は4名が縦に並んで、水の取口まで行動します。そこで、4名が同時に「オックハン」を流水につけます。その後、途中一人ずつ分かれて各地区の水路等を点検し、再び上流にある池(新池、昔は覚念池:埋め立てて明石清水高校になる)の堰堤に集まり、弁天さん(明石清水高校の野球部のバックネットの直ぐ北、池の中に祠がある)にお参りし般若心経をあげます。その後、揃って清水神社に戻ってきます。4名の歩く距離は、2～4km。昔の装束は緋(りよ)の紋付羽織で、草鞋。現在の装束に変更されたのは、平成4～5年からだそうです。



田植えの終了を祝い祝う行事は全国的に見られるが、この清水地区の「オクワン」は水との結びつきを明確に伝えるなど、現在では極めて珍しい慣行と考えられます。